

伊藤博文



[伊藤博文_下载链接1_](#)

著者:瀧井 一博

出版者:中央公論新社

出版时间:2010-4

装帧:新書

isbn:9784121020512

幕末維新时期、若くして英国に留学、西洋文明の洗礼を受けた伊藤博文。明治維新後は、憲法を制定し、議会を開設、初代総理大臣として近代日本の骨格を創り上げた。だがその評価は、哲学なき政略家、思想なき現実主義者、また韓国併合の推進者とされ、極めて低い。しかし事實は違う。本書は、「文明」「立憲国家」「国民政治」の三つの視角から、丹念に生涯を辿り、伊藤の隠された思想・国家構想を明らかにする。サントリー学芸賞受賞。

作者介绍:

瀧井/一博

1967年(昭和42年)福岡県生まれ。90年京都大学法学部卒業。92年京都大学大学院法学研究科修士課程修了。98年京都大学大学院法学研究科博士後期課程修了。博士(法学)。1995年京都大学人文科学研究所助手。2001年神戸商科大学助教授。04年兵庫県立大学経営学部助教授。06年、同大学経営学部教授。07年より国際日本文化研究センター准教授(08年より総合研究大学院大学准教授を兼任)。『文明史のなかの明治憲法』(講談社選書メチエ、2003年、角川財団学芸賞受賞、大佛次郎論壇賞受賞)(本データはこの書籍が刊行された当時に掲載されていたものです)

目录:

[伊藤博文_下载链接1](#)

标签

日本史

伊藤博文

立宪

潜水

武士

日语

日本近代史

日本

评论

由于是法学家的著作，对伊藤博文的讨论基本从明治宪法这一层来考虑，早年留英经历给伊藤思想上很大的影响，比如他认为改革必须符合民族的传统，这很容易让人想到伯克对法国革命的批评。比如渐进主义，认为立宪政治需植根本国发展实际、国民政治上的成熟，所以伊藤不同意立即实行选举制，而强调先用教育启发民智，渐进中形成国民广泛参与的民主政治。比较值得关注的是，伊藤对中国的戊戌变法采取的还是一贯的渐进主义立场，是持消极态度的，甚至预计在中国导入立宪、选举制度会导致混乱，和日本是一个单一民族的国家不同，多民族、多语言、幅员广阔的中国并不适合立即导入立宪制，这需要等到交通发展、统一法制形成等诸多条件完备以后。伊藤对教育极重视，国民智识的开化是国家强大的基础，大概这是明治人的共同点，福泽也说过“一身独立して一国独立する”

[伊藤博文_下载链接1_](#)

书评

[伊藤博文_下载链接1_](#)